

令和5年10月19日

課名 総務局 研究開発課

担当者 研究開発担当部長(兼)研究開発課長 木村

内線 2404

課名 農林水産局 農業経営発展課

担当者 農業経営発展課長 出原

内線 3590

高温登熟耐性を持つ酒米「広系酒 45 号」の育成について

1 要旨・目的

広島県は、国の研究機関^{※1}、生産者団体^{※2}及び広島県酒造協同組合と共同で、全国で初めて高温登熟耐性^{※3}を持つ酒造好適米（酒米）の新品種「広系酒 45 号」を育成し、名称を「も萌えいぶき」と決定した。

※1 国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構西日本農業研究センター

※2 全国農業協同組合連合会広島県本部、広島県穀物改良協会

※3 米の生育時期に高温に遭遇しても品質低下が少ない性質

2 現状・背景

近年、夏期に高温が続くことで酒米の品質低下が見られたことから、今後の地球温暖化を見据えた品種の育成が求められた。

3 概要

(1) 対象者

県内酒造会社、酒米生産者

(2) 事業内容（実施内容）

対象者のニーズに基づき、①高温登熟耐性を持つ、②多収の酒米「八反錦 1 号」と同等以上の収量、③米が溶けやすく豊かな味の酒になりやすい、④精米時に割れにくい、という 4 つの特長を持つ酒米を共同研究により育成した。

(3) スケジュール（共同研究期間）

平成 24 年度～令和 3 年度（10 年間）

(4) 予算（単県）

16,782 千円（平成 24 年度～令和 3 年度）

(5) 事業効果・検証結果

令和 4 年度栽培の「広系酒 45 号」は県内酒造業者 9 社が使用した。令和 5 年度から本格栽培が始まり、今年度は十数社での使用が予定されている。

(6) 今後の対応

広島県では、「広系酒 45 号」を本年 3 月に奨励品種として決定しており、今後は種子の安定供給に取り組むとともに、本酒米を用いた酒の製品化を支援していく。

4 その他（関連情報等）

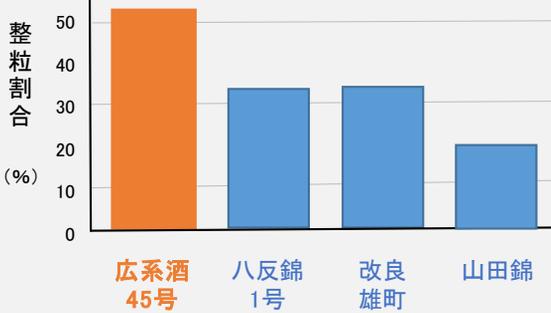
「広系酒 45 号」に関するホームページ

<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/soshiki/30/hirokeisake45.html>

高温に強く多収の酒造好適米「広系酒45号」

- 高温条件下で登熟しても玄米品質の劣化や溶けやすさの変化が少ない
- 高温登熟耐性を持つ酒造好適米(酒米)は全国初
- 多収の酒米「八反錦1号」と同等以上の収量

高温登熟処理時の整粒割合

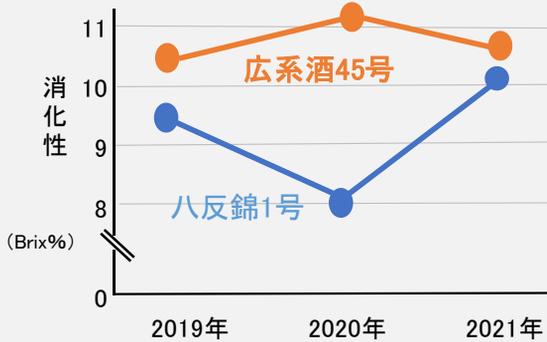


品種名	成熟期 (月.日)	収量 (kg/a)	玄米等級
広系酒45号	10.2	59.1	特級
八反錦1号	9.5	56.4	1等
改良雄町	9.23	46.0	1等
こいおまち	9.19	49.4	1等
山田錦	10.2	56.7	1等

① 高温登熟でも品質良好

② 多収の酒米「八反錦1号」と同等以上の収量

消化性(Brix%)の年次変動

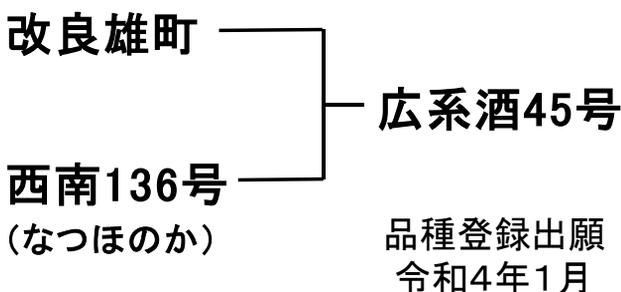


※心白(写真矢印の白濁部分)
心白が大きいと精米が難しく、大吟醸に不向き

③ 米が溶けやすく
豊かな味の酒となりやすい

④ 精米時に割れにくい
(「心白」※の大きさは中程度)

系譜図



「広系酒45号」を奨励品種として
決定し、種子安定供給に取り組む

「広系酒45号」の名称は
「萌え(もえ)いぶき」に決定した